

8-8
NO. 10

部内資料

農村出稼者の妻の生活と意識

—出稼留守家庭に関する調査結果報告—

労働省婦人少年局

は し が き

最近農村からの出稼をめぐる問題が社会の関心をよんでおります。婦人少年局では、特に農村婦人の福祉の面からこの問題に注目し、すでに農村地域担当婦人少年室協助員を設置するなど、対策を行っておりますが、さらに実情を明らかにして、今後の施策に役立てるために農村出稼家庭調査を実施いたしました。この調査は、出稼の問題を留守家族とくに主婦の側からみようとすること、夫の私稼という事態が妻の生活にどのように影響しているか、夫との連絡はどのように保たれているか、留守家族のくらしや夫の出稼について妻がどう考えているか、などの点を明らかにすることを意図しています。

調査は留守家族の妻を主体としていますが、留守家族との関連で夫の側の調査も実施いたしました。

この調査の結果が農村婦人の問題に関心をもたれる方々の御参考になれば幸いと考えます。

この調査の実施にあたって、道、県、職業安定機関、農業委員会、市町村役場の方々、又調査対象者を雇用する各事業主、ならびに対象者の方々の多大の御協力を得ましたことを深く感謝し、ここに厚く御礼申し上げます。

1966年7月

労働省 婦人少年局

目 次

調査実施の要領	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の地域および調査の時期	2
3. 調査の方法	3
4. 調査事項	3
調査対象者および世帯の概況	3
1. 対象者および世帯の状況	3
2. 農業経営の状況	6
3. 夫の出稼の状況	7
調査結果の要約	15
調査結果	18
1. 出稼者と留守家族の連絡状況	18
(1) 夫の休暇、帰省	18
(2) 妻の面会	20
(3) 夫からの便り	21
(4) 留守家族より夫への便り	22
(5) 夫からの送金方法	24
(6) その他の連絡方法	25
2. 出稼が家庭におよぼす影響	26
(1) 家計への寄与	26
(2) 妻にかかる負担	29
1. 営 農	29

ロ	家庭管理	30
ハ	社会生活	32
(3)	小、中学生の子供への影響	34
(4)	夫不在のため困ること	35
イ	営農	38
ロ	家事	38
ハ	社会生活	38
ニ	その他	38
(5)	夫留守中の妻の相談相手	39
(6)	郷里に関する夫の気がかり	40
3	出稼中の夫の生活と妻の心配	42
(1)	病気、怪我	42
(2)	職場の人間関係	42
(3)	小ずかいの額と主たる用途	43
(4)	余暇の過ごし方	44
(5)	職場や日常生活で困ることの有無	45
4	出稼に対する夫と妻の意識	46
(1)	今後の出稼希望（夫および妻）	47
(2)	出稼や留守家族に関する意見	49

調査実施の要領

1. 目的 農村出稼労務者の増加に伴う諸現象は、農村婦人とその家庭生活に各種の影響をおよぼしているとみられるので、出稼者の妻と他出している夫の生活と意識を調査してその問題点をあきらかにすることを目的とした。

2. 調査の地域および調査の時期

この調査は留守家族調査及び出稼者調査の二つに分けられるがその地域及び対象は次のとおりである。

(1) 留守家族調査

青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟、長野、兵庫、徳島、愛媛、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、の16県において各1カ市町村を選定し各地点において出稼労務者の妻20名を対象として昭和40年12月に実施した。

集計は回収された316票について行なった。

調査地点として選定された市町村は次のとおりである。

県名	調査地点	県名	調査地点
青森	北津軽郡金木町	兵庫	多紀郡篠山町
岩手	二戸郡安代町田山地区	徳島	三好郡池田町
宮城	玉造郡岩出山町	愛媛	北宇和郡松野町
秋田	由利郡島海村	長崎	平戸市大久保町
山形	北村山郡大石田町	熊本	上益城郡甲佐町
福島	安達郡安達町	大分	竹田市
新潟	岩船郡神林村	宮崎	西諸県郡野尻町
長野	飯山市	鹿児島	薩摩郡樋脇町

調査結果は上記の地点を米の単作地域（青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟、長野、兵庫）とその他の地域（徳島、愛媛、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）にわけて集計した。

地域別対象者数	総 数	単 作 地 域	その他の地域
	316	179	137

(2) 出稼者調査

(1)の対象者の夫を対象として、その就労先事業所の所在地において昭和41年2月実施した。対象は(1)によって回収された316票のうち夫の連絡先が判明している者295名について行ない、集計は回収された173票について行なった。これを出身地の地域別にわけると次のようになる。

地域別対象者数	総 数	単 作 地 域	その他の地域
	173	116	57

回収状況および調査不能となった理由は下記のとおりである。

調 査 対 象 者 総 数	調 査 票 回 収 数	調 査 不 能 計	調 査 不 能 理 由									
			事業所 確認できず 所在	含むの肉類 事業所（現場を	雇用 当該事業所に の事実なし	現 在 雇 用 中				退（転）職		
						一時帰省中	馬面接 病気が けが不 能	果外 現場配 に転	調査拒否	帰郷	果外 転職	転職先不明
295	173	122	15	6	8	4	2	4	1	68	4	10

3. 調査の方法

婦人少年室職員による面接調査

4. 調査事項

(1) 留守家族調査

家族構成、就業状況、夫及び家族員の出稼状況、夫との連絡状況、夫の出稼が家庭に及ぼす影響、出稼についての意識等

(2) 出稼者調査

就業状況、郷里との連絡状況、留守家庭及び現在の生活に関する安心感等。

なおこの調査で「出稼」とは「農業従事者が30日以上、一定期間を限って生活の本拠である住所をはなれて、自家農業以外に就業し、期間終了後その住所に復帰すること」をいい、「現在出稼中」とは調査時点において他出後30日以上経過していなくても、その予定のものを含めた。

調査対象者および世帯の概況

1. 対象者及び世帯の状況

○年令別

	総数	20才代	30才代	40才代	50才代	60才以上	不明
妻	316	50	132	109	22	2	1
夫(出稼者)	316	26	107	133	36	10*	4

(留守家族調査)

夫(出稼者)の最高年令上位より

68才 (鹿児島出身 ビル掃除)

66才 (愛媛出身 土木)

64才 (宮崎 " 土木)

63才 (兵庫 " 社 氏)

上表のうち出稼者調査の対象となった夫の年令は次のとおり。

夫総数	20才代	30才代	40才代	50才代	60才以上
173	13	68	65	19	8

(出稼者調査)

○夫(出稼者)の世帯上の地位別

総 数	世 帯 主	農業後継者	そ の 他
316	232	78	6

(留守家族調査)

○家 族 型 別

総 数	基 本 世 帯 (夫婦と子供)	複 合 世 帯 (その他の家族を含む)
316	131	185

(留守家族調査)

基本世帯と複合世帯の割合は、単作地域では34%と66%であるが、その他の地域では52%、48%である。

○世帯人員別

総 数	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	平均
316	3	19	50	78	78	48	22	12	5	1	5.7人

(留守家族調査)

単作地域の平均世帯人員は5.9人、その他の地域は5.5人である。

(なお、昭和39年の全国農家平均世帯員は5.36人である。

—農家経済調査—)

○ 1世帯当り出稼者数別

総 数	1 人	2 人
316	289	27

(田守家族調査)

1世帯から2名出稼を出している世帯は

「単作地域」では11%、

「その他の地域」では5%である。

1世帯2名の出稼の内訳は次のとおりである、

夫と子	19	{ 夫と長男	15
		{ 〃と二男	3
		{ 〃と長女	1
夫とその父	4		
夫とその他	4	{ 夫と夫の弟	2
		{ 夫と夫の妹	1
の家族		{ 夫と本人の兄	1

妻の就業の有無別

総 数	農業従事者			その他の有職者					家事従事者		
	小 計	副業 なし	副業 あり	小 計	失 対 人 夫	助 産 婦	給 食 婦	商 業	小 計	副業 なし	副業 あり
316	301	231	70	5	2	1	1	1	10	9	1

(田守家族調査)

1) その他の有職者は「その他の地域」のみである、

2) 副業のうちわけは下表のとおりである。

雇用労働(臨時・季節・パートタイム)											その他(M.A)						
副業あるものの総数	雇用労働(臨時・季節・パートタイム)										その他(M.A)						
	小計	土工 人夫	次事婦 稚役婦 板みがき	農業(自家農業以外)	工員 (竹製品 製瓦 手袋 その他)	真球養殖	電話交換手	新聞配達	近所の手伝い(家事)	不明	小計	依頼あり なわ ない	竹細工 つる細工	凍豆腐 豆腐製造	大工 やねふき	商業(野菜 菓子 日用品)	
	71	51	14	7	8	4	2	1	1	3	11	20	8	5	2	2	3

(留守家族調査)

2. 農業経営の状況.

○ 至営耕地面積 規模別

総数	1反 未満	1反 ～5反	5反 ～1町	1町 ～2町	2町 以上
316	註1) 11	82	108	93	22

(留守家族調査)

注1) 1反未満のうち至営耕地面積0のものが8件(単作地域1、その他の地域7)あり。

単作地域では、1町以上のものが56%をしめ、その他の地域では1町以下のものが90%をしめている。

昭38の北海道を除く都府県の構成比は1ha以下70%、1ha以上30%である。) — 農林省農業調査 —

○経営形態別

総 数	田 作	田 畑 作	畑 作	野 菜 作	田 と そ の 他	田 畑 と そ の 他	畑 と 草 地	複 合
316	83	126	27	7	19	37	6	11

(留守家族調査)

注) その他は養蚕、果樹、野菜、酪農、養鶏、養豚等
のうち、複合はそれらの2~3の組合わせで
ある。

○農業所得
階層別

総 数	5万円 以下	5万円 ~ 20万円	20万円 ~ 40万円	40万円 ~ 60万円	60万円 ~ 80万円	80万円 以上	不 明
316	48	105	82	36	11	11	23

(留守家族調査)

60万円以上は単作地域のみで、100万円以上が8件である。
5万円以下には農業所得〇と答えたものが16件(単作地域
3、その他の地域に13)ある。

(なお、昭和39年の全国平均は31.9万円である——農林
省農家全済調査——)

3. 夫の出稼の状況

○就労経路別

総 数	安 居	縁 故	募 集	直 接	不 明
316	55	221	17	20	3

(留守家族調査)

注)「縁故」----知人、友人、親せきの紹介によるもの

「募集」----事業所の直接募集又は委託募集による
もの。

「直接」----本人が事業所へ直接申し込んだもの。

地域別にみると「単作地域では23%が転安の紹介によってより、「その他の地域」では10%が転安の紹介である。

総 数	転 安	縁 故*	募 集	直 接
173	30	119	8	16

(出稼者調査)

注) *縁故には「杜氏組合および杜氏のせわ」をふくむ。

○出稼業種別

総 数	建 築 業	製 造 業	サ ー ビ ス 業	林 業	水 産 業	卸 小 売 業	運 輸 業	鉱 業	そ の 他
316	237	52	9	7	3	3	2	1	2

(留守家族調査)

総 数	林 業	漁 業	建 設 業	製 造 業	卸 小 売 業	運 輸 業
173	7	2	113	46	3	2

(出稼者調査)

○出稼転種別

総 数	土 工	大 工	雑 役	酒 造 工	その他の工員	事 務	伐 し 採 集 材 や だ	そ の 他
173	79	14	19	19	25	3	6	8

(出稼者調査)

注) 1. その他の工員……
 石材研磨工、ペンキ工、配管工、プレス工、成型工、仕上工、

板金工、印刷製版工、検査工
機械すえつけ工、梱包工、こ
んにやく製造工、製函工、金
型工、鑄造工、熱処理工、組
立工、燃糸機械工、

2. その他 -----

{ 指導員、トラック運転手、そ
ば出前、荷役、夜警、調理士
のり採取

○ 出稼前歴の有無
及び前歴回数別

総 数	前 歴 なし	前 歴 あり (前 歴 回 数)									
		小 計	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回 ~9	10 回 ~19	20 回 以上	不 明
316	47	269	39	54	57	32	22	24	27	11	3

(留守家族調査)

総数の85%が出稼前歴をもっているが、地域別には「単作地域」では89%「その他の地域」では80%、前歴出稼の回数も単作地域の方がその他の地域よりも多くなっている。

総 数	前 歴 なし	前 歴 あり (前 歴 回 数)									
		小 計	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回 ~9	10 回 ~19	20回 以上	不 明
173	31	142	7	33	19	16	13	24	17	12	1

(出稼者調査)

○出稼後の
移動状況別

総 数	ずっと 三回 以上 いる	勤先をかわった ^{注)1}					住居をかわった ^{注)2}					
		小 計	1 回	2 回	3 回	20回 以上	小 計	1 回	2 回	3 回	4 回	10回 以上
173	147	12	8	2	1	1	14	6	1	4	1	2

(出稼者調査)

- 注) 1. 勤務先をかわった主な理由は、仕事なくなった、
給与のよいところへかわった等である。
2. 住居をかわった理由としては、現場移動によるもの、
他現場への配転によるものなどである。

○今次出稼
予定期間別

総 数	3 ヵ月 未満	3 6 ヵ月 以上 未満	6 7 ヵ月 以上 未満	7 一 ヵ月 以上 未満	一 ヵ月 以上	不 明	不 平 明を 除く 均(一 ヵ月)
316	36	189	43	10	10	28	5.1

(留守家族調査)

「単作地域」では、6ヶ月未満の期間を予定しているもの
87% (7ヶ月未満の予定は74%)であるが、「その
他の地域」では50% (73%)であり、平均月数も「単
作」が4.3ヶ月、「その他」は6.2ヶ月となっている。

「その他の地域」では15%が不明である。(総数では9%)

1ヶ月以上のうちわけは期間別にみると

40 ヵ月以上	2件
30 ヵ月	1件
20 ヵ月	1件

12カ月以上 / 8カ月 6件

で、うち 8 件を「その他の地域」が占めている。

総 数	3 カ 月 未 満	3 カ 月 以 上 6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上 9 カ 月 未 満	9 カ 月 以 上 一 カ 年 未 満	一 カ 年 以 上	不 明	平 均 不 明 を 除 く
173	5	116	21	5	10	16	6.5月

(出稼者調査)

なお、留守家族調査の妻の答によつて夫が出稼前歴を有する269について前回の出稼期間をみると次の通りであるが、この場合も「その他の地域」の期間が「単作地域」に比し長い。

出稼前歴あ るものの総数	3 カ 月 未 満	3 カ 月 以 上 6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上 一 カ 年 未 満	一 カ 年 以 上	不 明
269	30	166	56	10	7

(留守家族調査)

○ 今次出稼後
の(調査時点
までの)全週
日数別

総 数	10 日 未 満	10.30 日 以 上 未 満	30 日 以 上 3 カ 月 未 満	3 カ 月 以 上 6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上 1 年 未 満	1 年 以 上
316	11	95	150	30	22	7

(留守家族調査)

総 数	30 日 以 上	3 カ 月 未 満	3 カ 月 以 上	6 カ 月 未 満	6 カ 月 以 上	9 カ 月 未 満	9 カ 月 以 上	1 年 未 満	1 年 以 上
173	92	47	8	9	17				

(出稼者調査)

注) 出稼者調査時矣は、留守家族調査時矣より約2カ月
至過後である。

○ 調査対象者(夫)の出身県と出稼先

		夫 の 出 稼 先														
		総 数	都 道													
			小 計	北 海 道	宮 城	山 形	栃 木	埼 玉	千 葉	東 京	神 奈 川	新 潟	福 井	長 野	岐 阜	静 岡
出身県	計	316	295	8	1	1	1	6	6	50	61	6	2	2	11	11
	青 森	24	24							11	11			1		
	岩 手	20	19	6	1			1		1	3					2
	宮 城	20	17	2		1			1	5	7	1				
	秋 田	20	20					1	1	3	14					1
	山 形	18	18					2	1	6	4					2
	福 島	17	14					1	2		11					
	新 潟	20	20							4	3				4	
	長 野	20	20						1	13	2	2				1
	兵 庫	20	20				1									
	徳 島	20	18										1	1		
	愛 媛	20	20							1					6	
	長 崎	19	15													
	熊 本	20	18							1						
県	大 分	19	19							5		3			1	
	宮 崎	20	14								1					
	鹿児島	19	19					1			5		1			

(注) 連絡先不明の理由のうちわけは次のとおりである。

- イ. 出発後日が浅く、行先からの連絡まちのもの(5件)ロ. 手紙は来たが佐夫が帰省中で再出稼の就労場所不明のもの(2件)ホ. 夫の行先をきいたが控えて
- ケ. 直ぐ帰ることが分っているもの、リ. 音信不通の行方不明のもの各1。

(留 守 家 族 調 査 に よ る 。)

府 県																そ の 他		
愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	広島	徳島	愛媛	高知	福岡	長崎	熊本	大分	小計	県内出稼	連移先不明 ^注
20	1	1	10	31	25	4	7	2	3	8	8	3	2	1	3	21	3	18
		1																
																1		1
																3		3
3																		
																3		3
7				1						1								
1																		
			10			2			3	3			1					
				4	1			2		4	2			1	2	2	1	1
5				2	3						3							
2				6		2	5									4		4
1				7	7							2				2		2
				6	2							1	1					
				1	7		2				3					6	2	4
1	1			4	5										1			

所をわすれたもの(3件)ハ、送金はあるが住所が分らぬもの(3件)ニ、調査時失に
ないもの。ヘ、作業場がしはしば移動するものト、近く取場移動の予定で詳細不明のもの

調査結果の要約

1. 出稼者と留守家族との連絡状況

出稼者と留守家族との間に、どの程度緊密な連絡がとれているかについて、次のような点が目される。

- 夫の連絡先について、音信不通の行方不明は1件のみであるが、夫の出発前に連絡先が明らかでなくとも、また、夫の居所が不明であっても、送金さえあれば妻は大して気にしていない風がある。
- 出稼者の約²/₃は、出稼期間の途中で休暇等により帰省している。
- 出稼者と留守家族との間の交信は、出稼期間によって異なるが、それぞれ、月1～2回の頻度で行なわれているものが50～80%をしめている。しかし中には、出稼期間中交信のないものもあった。
- 出稼者の約7割は出稼期間の途中で、留守宅に送金しており、約¹/₄は途中送金によらず、出稼期間満了後持ち帰っている。途中送金の頻度は、送金するものの約半数が月1回程度で、あとの半数はそれ以下である。しかし中には送金について妻がわからないというものが1/6ある。

2. 出稼が家庭に及ぼす影響

夫が出稼をしていることによって、その妻および家族はどのような影響を受けているかを、家計に及ぼす影響、妻の精神的労力的負担、子どもへの影響などからみて、次のような点が目される。

- 今次の出稼によって家に入れる（と妻が期待している）平均金額は1世帯当り¥4,412円で、これを1月当りにすれば、¥8,511円である。

○ 金の使途としては、約7割の妻が、生活費にあてるとこたえている。中でも、日常の生活費、子供の教育資金とこたえたものが多い。後述のとおり、今後の出稼について「やめてもらいたいがやめられない」とこたえているものが多いことや、出稼に関する意見の中で、「近くでみいりのよい仕事がある」「農業だけで生活できるようにしたい」などの意見の多いことと考えあわせられる。営農資金にするもの、借金返済にあてるものは、それぞれ15%で、貯金と答えたものは、12%である。(1人で2項目以上答えたものがある。)夫の答えでは妻よりも営農資金に重きをおいている傾向がある。(30%)

○ 夫の出稼によって、留守をあづかる妻には、営農、家事、地域社会における責任が大きく加わっている。たとえば、ふだん(夫の在宅時)にも¹程度の妻は、中心となって農作業をしているが、夫の出稼中は8割の妻が中心となっている。家の代表としてつきあいに出る妻は、平素は3割に足りないが、夫の出稼中は7割以上のものがつきあいに出なければならぬ立場にたち、家の中の大事なことをさめる人としては、ふだんの2割程度が、出稼中は6割と分とその増加がめだっている。また、地域社会における公的、半公的役割を夫に代って引きうけなければならない妻も2割近くある。

○ 小、中学生の子供をもっている妻の半数近くは、夫の出稼が、子供に何らかの影響を与えているとみている。影響の内容は、「手っぴをよくなるようになった」「しつかりして相談相手になるようになった」などよい面と、「勉強しなくなった」「やがままになった」などの悪い面の、功罪が相半はしている。

夫の方はかなりの者が子供のしつけや教育の面で非行化のおそれはない

いかと心配している。

- 出稼中の夫について、妻が最も心配していることは、「けが」「病
気」であるが、夫の方でも出稼先での「けが」や病気の時の心細さや
補償上の不安を訴えており、対象者ノク三人中、ノの人が怪我や病気を
したと去っている。

「酒」「女性関係」「金づかい」のほか、「行方不明」に関する心配
などを少数の妻があげている。

- このような生活の中で、半数以上の妻が、夫の出稼のために何らか
の点で「困る」ことをもっている。「困る」こととしては、農業の面
では、農機具の扱い、修理、家畜の飼育、消毒、防除などの知識技術
を要する仕事や力仕事が多くあげられ、家事の面では（すべてにこま
るというものが多いが）雪や台風などの災害の防備や、家族の病気、
税申告などの書類に関すること、社会生活の面では、部落の賦役や冠
婚葬祭の折の奉仕などが多くあげられている。一方半数以上の夫が郷
里に関する気がかりをのべており、その内容は妻の困っていることと、
大差ないが、なかでも家族の健康、子供の教育やしつけを心配するも
のがもっとも多く、宮農準備の心配がそれに次いでいる。

- 困ったことがあるとき、その相談をする人については、9割近くの
妻が「ある」とこたえている。しかし約1割の妻は、困ったときに相
談する相手をもっていない。

3. 出稼に関する意識

出稼について留守家庭の妻がどのような意識をもっているかを、夫の
出稼継続についての希望や、出稼、留守家庭問題に関する自由な発言
によってみれば、次のとおりである。

○ 今後の出稼について、ノ割は、「もうやめてもらいたい」といつて
いるが、8割のものは、積極的にしろ消極的にしろ、継続を肯定して
いる。しかし、そのうちの5割は「やめてもらいたいがやめられない」
というものである。夫も7割が「また出稼をする」といい、「もうや
めるつもり」と答えたものはノ割に満たない。

○ 出稼や留守家族に関しての意見としては、出稼をなくすための方策
をのべたものが最も多く、その内容としては、近くに（通勤範囲に）
高賃金の働き場所がほしい というのが圧倒的に多い。出稼そのもの
については、上記と同じく、やむをえないという消極的肯定意見が、
よくないという否定的意見を上まわっている。

出稼者の福祉に関することの中では、休暇帰省制度や、帰省旅費に
ふれたものが多い。留守家族の福祉対策としては、内取あっせん、留
守家族のグループ組織づくりとその活動などがのぞまれている。

調 査 結 果

1. 出稼者と留守家族との連絡の状況

(1) 夫の帰省

(阿) 御主人はこんど出稼にいかれてから休暇などでお帰りに
なったことがありますか。-----

補1. これから帰られる予定でしょうか。-----

補2. できたらご主人に途中で帰ってもらいたいと思いますか。

総 数	今次出稼中夫の帰省の有無					夫の帰省についての妻の希望						
	帰 っ た	帰ったことなし				無 回 答	帰らないもの の計 帰る予定なし わか	帰 っ て も う い たい	そ の 必 要 な し	ど ち ら ど も い	そ の 他	不 明
		小 計	帰 る 予 定	帰 る 予 定 なし	わ か ら な い							
316	77	238	131	77	30	1	107	38	47	13	8	1

(留守家族調査)

夫の帰省についての妻の希望のうち「その必要なし」「その他」の中には「路銀がいるから帰る必要なし」「帰ってほしいが費用がいる」と答えたものがある。

出稼後3カ月以上経過したもの60名のうち「帰ったことがない」ものが25名あり「帰る予定なし」及び「わからない」ものが10名ある。(6カ月以上のものは29名中、それぞれ、23名、4名である。)

総数中、家族構成別には、基本家族の方が、帰ったものや、帰る予定のものが多く、地域別には、「その他の地域」が多い。

(注、「その他の地域」は一般的に出稼期間が長い。)

なお、前回の出稼中の状況は次のとおりである。

(問)(夫が出稼前歴があるものへ)この前の出稼中、ご主人は途中休暇などで帰宅されましたか。

夫に出稼前歴ある ものの総数	前回出稼期間中の夫の帰省	
	帰った	帰らない
269	158	111

(留守家族調査)

出稼者調査では夫の帰省についてはとつていないが、「休日の過ごし方」の答の中に「帰郷する」との答え14件あり、また、出稼後一度も郷里に手紙をかいていないもので、かかない理由を、「休日ごとに帰るから」「たびたび帰るから」などと答えたものが4名ある。

(2) 妻の面会

(問) 御主人がこんど出稼に行かれてから、あなたは面会に行かれましたか。-----

補1 今後行く予定がありますか -----

補2 もし行けたらご主人に面会に行きたいと思いませんか-----

総 数	今出稼中妻の面会の有無					面会についての妻の希望					
	行 つ た	行かない				わ か ら な い も の 計 行 く 予 定 なし	行 き た い	行 く 必 要 なし	ど ち う で も よい	そ の 他	不 明
		小 計	今 後 行 く 予 定	行 く 予 定 なし	わ か ら な い						
316	ク	309	11	282	16	298	70	157	34	35	2

(留守家族調査)

「その他」の中の主なものは、「老人子供を残して行けない」「費用がかかるので」「仕事が忙しい」「あきらめている」「行先道順がわからない」などである。

なお、前回の出稼中の状況は次のとおりである。

(問) この前の出稼中、あなたが面会にいらっしゃいましたか、

夫に出稼前歴あ るものの総数	前回出稼中妻の面会		
	行った	行かない	不明
269	10	256	3

(留守家族調査)

(3) 夫からの便り

(向) ご主人からの最近のおたよりはいつありましたか-----

総 数	最近によりのあったもの				まだ 便りなし	そ の 他
	小 計	「一週 間以内」 前に	「一週 間以上一 月以 内」前に	「一 月以上三 月以内」 前に		
316	258	148	106	4	40	18

(留守家族調査)

「まだ便りなし」のうち、出稼後3ヶ月以上経過しているものが1件あるが、これは「夫はたびたび帰ってくる」といつている。その他の18件については帰省したばかり、現在帰宅中などが含まれている。

なお、前回の出稼中の夫からの便りの状況は次のとおり。

(向) この前の出稼の間に、ご主人からのお便りは何回位ありましたか-----

夫に出稼 前歴あり ものの総数	前回出稼中夫からの便りの有無回数								
	あ り							な し	不 明
	小 計	1 回	2 回	3 ~6	7 ~12	13 ~	不 明		
269	254	15	23	123	49	40	4	14	1

(留守家族調査)

出稼期間によって異なるが夫からの便りが月／回～2回の割合であったものが50%～80%をしめしている。

なかったものは出稼期間3カ月未満のものや3カ月以上6カ月未満のものなど、比較的出稼期間の短いものに多い。

出稼者調査で夫（出稼者）に家庭への通信状況をたずねた結果は次のとおりである。

(問) あなたはおうちにしばしば手紙をおかきになりますか――

総 数	週／回以 上かく	月／回以 上かく	たまにかく ことあり	まだ／度も かいていない	注) その他
173	34	122	11	5	1

(出稼者調査)

注) その他は「必要に応じて出す」

まだ／度もかいていないものが、かかない理由は「近いのでよく帰るから（休日ごとに、ノカ月にノ回位、月に1～2回、たびたび）」「両親がいて心配なことはないから」といっている。

4. 留守家族から夫への便り。

(問) あなたはご主人に手紙をおかきになりましたか――

(小中学生の子供のある人へ) 子どもさんは出していますか――

他のご家族の方はどうですか。――

総 数	手 紙 を 出 し た								出 さ な い	
	小 計	妻が出したものの					子 と 家 族	子 子 族		家 族
		小 計	妻 の み	妻 と 子	妻 と 家 族	妻と 子と 家族				
316	252	239	101	95	19	24	3	6	44	64

(留守家族調査)

注) 。子は小中学生の子供

。家族は小中学生の子供を除いた家族

出稼後3カ月以上経過しているもの(6カ月以上、1年以上を含む)で「たさない」ものが6件ある。

なお、前回の出稼中の留守家族からの通信の状況は次のとおりである。

(向) この前の出稼中あなたやご家族の方から、ご主人に何回位お手紙を出されましたか、-----

夫に出稼 前歴あるもの の総数	前回出稼中留守家族からの手紙の有無回数									
	出 し た							出 さ な か た	不 明	
	小 計	1回	2"	3 ~6	7 ~12	13 ~	不明			
269	245	17	23	104	50	43	8	22	2	

(留守家族調査)

手紙を出す頻度は、夫からの便りの頻度と大差はない。

「出さなかった」もののうちわけは、出稼期間3カ月未満のもの6、3カ月以上6カ月未満のもの9、6カ月以上1年未満のもの5。

1年以上のもの / 期間不明のもの / である。

(5) 夫からの送金方法

(問) ご主人のむこうで稼がれたお金は途中で送金してくるの
ですか。それともお帰りの時もってこられることになって
いるのですか。-----

総 数	途中で送金 してくる	帰宅時に 持参する	わからない	無 回 答
316	211	87	17	1

(留守家族調査)

なお、前回の出稼中の状況は次の通りである。

(問) この前の出稼のとき、ご主人からの送金が途中でありま
したか。-----

夫に出稼前 歴あるもの の総数	前 回 出 稼 時 の 夫 の 送 金									
	途中で送金あり及び回数							終 帰 了 時 の み	そ の 他	不 明
	小 計	1回	2回	3~6	7~12	13~	不 明			
269	195	35	32	92	24	4	8	69	4	1

(留守家族調査)

出稼期間3カ月未満のもの40%は「帰宅時のみ」であるが、
期間が長くなれば途中送金したものの率が高くなっている。

地域別には、単作地域では32%が、帰宅時に持参しているが、そ
の他の地域では17%である。

途中で送金したものの送金の頻度は、約半数が月1回程度である。

一方、出稼者調査で夫(出稼者)に家庭への送金方法についてたづ

ねた結果は次のとおりである。

(問) あなたは、おうちへ毎月送金なさいますか、それともお帰りのときおもちになりますか。-----

総 数	毎月送金 する	毎月ではない が"ときどき" 送金する。	送金しないで 帰るとき持参 する。	注) その他	不 明
173	124	13	34	1	1

(出稼者調査)

注)「その他」は農協へふりこむ。

(6) その他の連絡方法

(問) 出稼中のご主人に、手紙や面会など自分で連絡するほかに何か別の方法で連絡されることがありますか(MA)----

総 数	別 になし	面会に行く しんせき知人が ほかの家族や	とめて連絡する アの代表がま 留守家族グルー	村や農協など	がしてくれる。	その他の方法	不 明
316	272	23	4	5	3	1	

(留守家族調査)

「その他の方法」は、同村の出稼者が1時帰省の折連絡する。

小学校で機関誌を発行する。などである。

留守家族代表の連絡は「その他の地域」(鹿児島、徳島、長崎、大分)のみが、村や農協の連絡は「単作地帯」(山形、秋田)のみが答えている。

2. 出稼が家庭に及ぼす影響

(1) 家庭経済に対する寄与

イ、家にいれる金額

問 ご主人はこんどの出稼でどれくらいのお金をおうちにおいれるになる予定ですか。(妻の期待)

総 数	3万円 以下	3万 ～5万	5万 ～10万	10万 ～20万	20万 ～30万	30万 以上	不 明(注)	平 均 (不明を除く) 円
316	25	28	106	75	17	6	59	94,412

(留守家族調査)

注) 不明の中には送金月額を答えているが出稼期間が不明のため、不明となったもの13件がある。複合世帯の場合、夫の親あてに送金があり、妻にはわからないというものもある。総数の月平均金額は、出稼期間の平均が、5.1ヵ月であるので、108,511円となる。

期間中の平均金額は「単作地域」は97,111円、「その他の地域」は105,363円であるのが月平均はそれぞれ20,258円、16,994円となる。

一方出稼者調査で夫(出稼者)に今次出稼期間中家にいれる予定金額をたづねた結果は次のとおりである。

問 出稼期間中をとおして、どれ位の金額をおうちにおいれるなるおつもりですか。(夫の計画)

総 数	3万円 以下	3万 ～5万円	5万 ～10万円	10万 ～20万円	20万 ～30万	30万円 以上	不 明	平 均 (不明を除く)
173	1	2	63	63	15	14	15	136,642

(留守家族調査より抜き集計)

注) 不明の中には「給料が低いのでいくらにもならない」「

税の対象になるから いえない」のは月額又は年額をこえたものがある。

これを前記の留守家族調査の中から抜き集計した結果は次のとおりである。

問. ご主人はこんどの出稼でどれくらいの金額をおうちにおいてになる予定ですか。(専の期待)

総数	3万円以下	3万～5万円	5万～10万円	10万～20万円	20万～30万円	30万円以上	不明	不明を除く平均
173	6	14	61	43	10	4	31	106,330

(留守家族調査より抜き集計)

ロ. 金の使途

問. そのお金は何に使う予定ですか。(専の計画)(MA)

総数	営農資金	生活費	借金返済	税金納付	貯金	夫小づかい	別にあてを	その他	わからない	無回答
316	46	282	46	11	37	8	5	4	2	1

(留守家族調査)

注) 1人で2項目以上答えたものがあるので、合計は総数と一致しない。生活費の中では、日常の生活費が153、子供の教育資金が134で、家屋修理等(新築費をふくむ)がこれについて41である。

借金返済では、営農関係のものが、27である。

わからない2は、しうとが財布もちと答えている

(その他の中に、次の出稼の旅費と答えたものが1件ある。)

使途は地域によって差があり、営農資金と答えたものは「単作地

域」では、20%あるが、「その他の地域」では、9%であり、生活費は「単作」が、95%、「その他」では96%。借金返済は「単作」11%、「その他」で、19%のものが答えている。

税金納付と答えたものは、殆んどが「その他の地域」で、貯金は「単作地域」の率の方が高くなっている。

生活費の中で、教育資金、日常の生活費が、「その他」では、それぞれ53%の率をしめして、いずれも「単作」の率より高くなっているが、家屋修理費、耐久消費財購入とこたえたものの率はいずれも「単作」の方が高い。

家族型別には、複合家族が単作地帯と同様の傾向をしめし、基本家族はその他の地帯と似た傾向にある。すなわち基本家族が複合家族より高い率を示している主な使途別費目は、生活費（生活費の中では、子供の教育資金、日常生活費）借金返済で、複合家族の方が、基本家族より高率なものは、営農資金、貯金などである。（ただしその差は地域別よりもやや少ない。）

一方出稼者調査における夫の答は次のとおりで、対象範囲が異なるため、妻と直接の比較はできないが、夫は妻より営農資金に重きをおき、妻は生活費や税金納付により重点をおいている傾向がみられる。

問 そのお金は何に使う予定ですか。（夫の計画）（MA）

総 数	営 農 資 金	生 活 費	借 金 返 済	貯 金	別 にあ て な し	滞 り 相 談 す る 妻 と
173	51	148	26	12	1	1

（出稼者調査）

注）1人で2項目以上答えたものがあるので合計は総数と一致しない。

(2) 妻にかかる負担

イ、営農において

問、ふたん（ご主人が家にいらつしやるとき）おたくで農業を主になつてしていた方はどなたですか。

(1) 作付など営農計画をたてる人は、

(2) 実際の農作業を主になつてする人は

	総 数	在 宅 者				出 稼 者 (夫 ^{その他})	出稼者をふくむ			(注) そ の 他
		小 計	本 人	本 ^{本人と} と ^{家族}	本 ^{本人以外} と ^{家族}		小 計	夫 と 本 人	夫 ^{以外の家族} と 本 人	
営農計画	316	66	40	1	25	209	32	25	7	9
農作業	316	76	56	3	17	171	60	60		9

(留守家族調査)

注) その他は非農家及び殆ど営農のないもの

補ノ、その人の留守のあいだはだれが中心になりますか。

	ふたん主 ^{ご主人}	本 ^{本人} 人	本 ^{本人と} と ^{家族}	本 ^{本人以外} と ^{家族}	(注) そ の 他
営農計画	241	164	9	43	26
農作業	231	191	11	24	15

(留守家族調査)

注) その他は「冬期には計画や作業の要なし」「出発前にすましておく」「手紙で相談する」「人をやとう」「計画たたず」などである。

営農上出稼者が中心となつていた責任は、その出稼中、営農計画では、69.0%が妻になつてきており(家族と共に負担するもの

を加えれば、71.%) 農作業では78.%(家族と共にを加えれば93.%)が妻の負担となっている。

すなわち、下表の通り出稼のないふだんの時に、営農計画を主となつてしている妻は13%(家族と共にを加えれば21%)であるが、出稼中には65%(67%)が、その責任をとることになる。(地域別には単作地帯で、ふだん5%の妻が主となつていたものが出稼中には58%、其の他の地域では22%であつたものが、84%となり、家族型別には基本家族の19%の妻が83%に、複合家族の8%が、57%と責任をとるものがふえている。)

	総 数	ふ た ん				出 稼 中			
		妻が中心となるもの			そ の 他	妻が中心となるもの			そ の 他
		小 計	本 人 のみ	家 族 と ともに		小 計	本 人 のみ	家 族 と ともに	
営農計画	316	66	40	26	250	213	204	9	103
農作業	316	117	56	61	199	251	237	14	65

(留守家族調査)

又、農作業については、ふだんの18%(家族と共にを加えれば37%)が出稼中には75%(79%)となつていゝ。(単作地域では11%より40%に、其の他の地域では27%より87%に、そして、家族型別では基本家族の25%より92%に、複合家族の13%より69%へと妻の責任負担はふえている。)

ロ. 家庭管理において

問. ふだん(ご主人がおうちにいらつしやるとき)おたくの家
のことを中心になつてしていた人はだれですか。

(1) 家計担当者(財布もちの人)

(2) つきあいなどにてる人

(3) 家の中の大事なことをきめる人

	総 数	在 宅 者				出稼者 (夫及その他)	出稼者をふくむ			
		小 計	本 人	夫 の父 ま	たは 母 その他		小 計	夫 と本 人	夫 と本 人 と子	又 は母 夫と 父
家 計	316	231	156	71	4	74	11	8		3
つきあい	316	134	70	59	5	163	19	13	1	5
大事の決定	316	116	38	68	10	165	35	27	1	7

(留守家族調査)

問 その方の留守中はどなたがしていますか。

	の 出稼中 の計 と共に を ていた 人(他 の 中心 にな る)	本 人	本 人 と 家 族	本 人 以 外 の 家 族	そ の 他		不 明
					手 紙 で 相 談	夫 が 帰 る	
家 計	95	73		11			1
つきあい	182	148	5	28		1	
大事の決定	200	158	10	24	6		2

(留守家族調査)

家庭管理に関する事で、出稼者が中心となつてとつていた責任はその出稼中、家計担当責任では6%が妻にうつつており、つきあいに関する事では9% (他の家族と共にをふくめれば4%)、家の大事なことを決定する場合には9% (4%) が妻の責任となつてきている。

出稼のない平素、家計担当者としての責任を49%の妻か本人のみで (家族と共にを加えれば52%) とつてゐるが、出稼中には33%が責任をとることになる。

つきあいなどに出る妻は平素は22%.(27%)であるが、出稼中には69% (71%)となり、また家の中力大事なことをきめる人としては、ふだんの12%(21%)が出稼中は62% (65%) とその増加が著るしい。(下表参照)

	総 数	ふ だ ん				出 稼 中			
		妻が中心となるもの			そ の 他	妻が中心となるもの			そ の 他
		小 計	本 人	本 と 家 族		小 計	本 人	本 と 家 族	
家 計	316	164	156	8	152	229	229		87
つきあい	316	84	70	14	232	223	218	5	93
大事の決定	316	66	38	28	250	206	196	10	110

(留守家族調査)

ハ 地域社会の生活において

問. ご主人はお家にいらっしゃる時、消防団とか、村や部落などの何か「役」をしていらっしゃいましたか。

総 数	1. 何も して ない	2. わか りな い	3. して いた	何をしていたか(M.A.)			
				農業そ の他産 業関係 の役	村部落 など地 域集 団の役	教育関 係の役	不 明
316	201	2	113	33	83	15	1

(留守家族調査)

問. その役のうち、留守中あなたが引うけているものがありますか

夫が「役」 をしていた ものの計	代 役 なし	代役して いるもの あり	妻の代役のうちわけ(M.A.)			
			農業その他 産業関係 の役	村部落 など地 域集 団の役	教育関係 の役	不 明
113	91	22	14	12	8	1

(留守家族調査)

注) 産業関係は 農協, 農業共済連, 養蚕組合, 森林組合, 土地改良区, 開拓組合, 耕耘機組合等をふくむ。

地域集団関係は 部落会, 町会, などの役員, 民生委員, 消防団等をふくむ,

教育関係は PTA, 青年団, 役員

問 役というのではないが, ご主人に代つてあなたが村や部落のことでなければならぬことがありますか。

総数	ない	ある	不明
316	229	75	12

(留守家族調査)

夫に代つてしなければならぬこととして, 次のようなことがあげられている。(M.A)

○ 部落の共同作業 41

道路作り, 修理, 山仕事(植入, 雑草刈などの手入れ)
雪かき, 雪きり, 水路のせわ, 溝掃除, 寺社の奉仕, その他の出賦日役等

○ 部落会出席 16

○ 冠婚葬祭, 家のふしん等における相互扶助奉仕の仕事 5

○ その他

部落のせわ, 会合のせわ, となり組当番, 輪番の班長, 文書回覧, 配布その他連絡伝達の仕事, PTA 関係, 国勢調査員, 衛生係, 養蚕に關すること, 消防機械の点検

部落のつとめのすべて、など

夫の「役」のうち出稼中妻が代役としているものは、夫が「役」をもつもののうち20%で、これは総数の7%であるが、いわゆる「役」以外のことでは総数の24%が、妻の責任にかなっている。

「役」の代役と「役」以外の仕事を引受けているものとは重複しているので、夫の出稼により、地域社会の生活について何らかの妻に加重される仕事があるものは、次表のとおり19%であるが、地域別には単作地帯で21%、家族型別では基本家族の27%である。

	総 数	仕事に加重あり	仕事に加重ない
計	316	60	256
単 作	179	39	140
その他	137	21	116
基 本	131	36	95
複 合	185	24	161

なお、数が少いが、夫の「役」のうち妻が「代役」をする役職の内容別に一つの傾向がみられる。即ち、教育関係（PTAなど）が最も多く、引受けられ、村、部落などの生活集団での世話役がこれに次ぎ、産業関係の役割は最も少ない。（産業関係のものを引受けているものも、諸経費の徴収や機関紙の配布等その仕事の一部だけを引受けている。）

(3) 子供（小、中学生）への影響

問 （小中学生の子どものある人へ）ご主人の出稼が子どもさんに影響していると思うことはありませんか（よくも悪くもですが）

小 中 学 生 の 子 の 数	影 響 は な い	影 響 あ り	影 響 ありの内容 (M.A)					そ の 他 ^(注)
			農 業 や 家 事 の 手 伝 を よ く す る よ う に な つ た	し つ み り し て 相 談 し な る よ う に な つ た	相 手 に な る よ う に な つ た	勉 強 し な く な つ た	わ か ま ま に な つ た こ わ い し な く な つ た	
235	134	101	41	24	14	39	23	

(留守家族調査)

注) その他としては、淋しがる、甘えがち、早くかえつてほしいと云うなどのあらわれ方をしているもの(ノ3) よく勉強するようになった、兄妹仲よくなってきた、いうことをよくきく、心配させないよう気をつなっているなど(々) 落ちつきなくイライラしている。反抗期で困ることがある、夜遊びにでるなど(3) しかる人がなくノンキになった(ノ)のほか、勉強をみてやれない、高校進学について父と相談できなかつた(2)ことをあげている。

地域別では「その他の地域」の方が 家族型別には、複合家族の方が、影響ありと答えたものの率が高い

(4) 夫不在のために困ること

問 ご主人がお留守のため営農に困ることはありますか

ご主人がお留守のため家の仕事のことで困ることはありますか

ご主人の留守のため村の仕事とか部落のつきあいなどのことで困ることはありますか

そのほかご主人の留守のため心配なことや困ることはありますか。

総 数	営 農 上				家庭管理上			社会生活上			その他全般的に		
	困らない	困る	困っている	非 農家	困らない	困る	不明	困らない	困る	不明	困らない	困る	不明
316	204	75	28	9	231	81	4	258	54	4	242	69	5

(留守家族調査)

地域別に見ると各項目とも、単作地域よりその他の地域の方が困ると答えたものの率は高く、特に営農上と社会生活上の困ることでその他の地域の率が高くなっている。

家族型別では、複合家族の方が「家庭管理上」と「その他」の項で、基本家族よりも高くなっている。

各項目別に困っていると答えたものの中には重複しているものもあるので、夫の留守により項目の如何をとわず、何らかのことで困っているかどうかは、下表の通りである。

総 数	困る	困らない	不明
316	170	138	8

(留守家族調査)

単作地域では45%のものが何らかのことで困るとこたえており、その他の地域は65%が困ることがあるといっている。

なお、夫が出稼前歴のあるものについて前回出稼中に一番困ったことについてたづねたが、こまったことの有無は、次の通りである。

夫に出稼前歴 あるものの総数	こまったこと あり	なし	不明
269	149	117	3

(留守家族調査)

当然のことながら出稼期間が長くなるにつれて困ったことありの
 らめる率は高くなっている。

前回の出稼中一番困ったことの内容としては、ノ４９名のものが
 ノ６３項目にわたって、次のようなことをあげている。

一 番 困 っ た こ と の う ち わ け (M ・ A)	営農上のこと	29
	堆肥はこび、整地苗代作り（とくに雪中ビニール張り）	
	雪中の煙草種まき、田植準備、稲の薬剤散布、力を要 する作業など、田、畑の作業	
	家畜の飼育	
	その他営農計画、農繁期の人手不足をふくむ農業全般	
	家の中のこと	102
	本人及家族の病気（怪我）	
	自然や災害の防備及び被害の処置（雪おろし、雪除、 雪ぶみなど、台風の被害、近所の火事）	
	子どもの教育、措置など。（進路決定、縁談、非行化 など）家計の問題（送金の少ないこと、おくれるこ とをふくむ）力仕事、人が雇えないことで妻が労働 過重になること）（家事、農事をふくむ）	
	その他家族間の不和および日常生活の不安感（女世帯 の不用心、災害時の心配、相談相手のない心細さ、手 紙の字がよめない、新嘗早々で生活になれないことなど）	
	社会生活のこと	32
	近所、親戚つきあい、冠婚葬祭（特に不幸）に男手がないこと 部落共同作業（役かたてこんだとき、男女差の強制など） 公的な書類その他の用件（税金、農協関係など）	

今回の出稼中においても、前回と大同小異でこまっていることのとくにあげているものは、次のような事項である。

〔営農上こまること〕

農作業のうち力のいや仕事や技術を要する仕事（たとえば、深耕、急勾配の畑に肥料をあげるとき、農機具の使用や修理、家畜の扱い、肥料の配合、消毒作業など）や営農計画、更に全般的人手不足による専の過労など。

〔家庭管理上こまること〕

雪や災害に対する防衛、家族の病氣、税の申告など公的な書類、家計の問題、その他、家事一切について、相談相手がないことなど。

〔社会生活上こまること〕

部落の共同作業や奉仕作業にでる人手がないこと。女では無理なこと。更に女子の出賦は都合あるいはア合役として扱われることなどが最も多く、冠婚葬祭、ふしんなどの際のつきあいも同様で困るという声が多い。その他、組合での重要事項に賛否をきめかねること、会合や作業に出ることが多くて困る。何かと不便など。

〔その他全般的に困ること〕

子どもの教育しつけ、進路決定等の心配、家庭の健康についての心配（病人をかくえている、年よりがいる、子どもが小さい）家族間の人間関係、（姑とのこと、子と祖父母のすれ、姑が財布もちで小づかいがないこと、夫に仲に入ってもらえないこと）経済面の心配（借金に関すること、子供の治療費のこと、自分に家計責任がかかっていること）、災害に対する不安、その他、漠

然たる精神的な負担と思われるものなど。

(5) 夫の留守中の専の相談相手

問 ご主人の留守中困ったこと、心配なこと、大事なことから
 について相談される相手がありますか。

総 数	あ る	な い	何とも いえない	不 明
316	276	31	8	1

(留守家族調査)

相談相手については97%がありと答えているが、ノ割近くのもの
 が、相談相手が無いといっており 答えをためらっているものを
 ふくめれば12% になつてゐる。(特に地域別には「その他の地域」
 が「ない」ものが12% (何ともいえないをふくめれば15%) で
 「単作地域」より高い、(単作地域は「ない」もの8%、何ともい
 えないをふくめて10%) 家族型別では、基本家族が「ない」も
 のが13%、「何ともいえない」をふくめて14%で、複合家族よ
 り高くなつてゐる。複合家族は「ない」もの4%「何ともいえ
 ない」をふくめて9%)

相談相手がある276名の妻がだれに相談をするかは、次のとお
 りである。

相談相 手がある もの計	だ れ に 相 談 す る か (M.A)									
	同 居 の 家 族					別 居 の 親 せ き				(注) そ の 他
	小 計	夫の父 母、祖 母	本人 の 父、母	子 供	そ の 他	小 計	本人の 父、母、兄 弟、姉、妹	夫の父、母、兄 弟、姉、妹	そ の 他	
276	139	105	5	22	7	135	47	30	58	27

(留守家族調査)

注) その他は近所の人(19) 本人の友人(4) 夫の友人、
仲人、民生委員、部落組合長(各1)である。

このことは、当然のことながら家族型によつて著るしい差がみられる。

(6) 郷里に関する夫の気がなり

これまでの夫の出稼によつて、専にかかっている負担、子供への影響、夫不在のために妻のこままっていることについて、留守家族調査での妻の答からみたが、夫の側の郷里に関する気がなりは次のとおりである。

問 ご郷里のこと、たとえば学農のことやご家族のこと、村や部落の仕事のことなど、気がなりになつていううしやることがありますか

総 数	何 も な い	気がなり な ことか ある
173	74	99

(出稼者調査)

これを前出の留守家族調査で、妻が夫の留守のため何らかのことで困ることの有無について、出稼者調査集計該当者の妻のみの分を抜き集計すると次のとおりとなる。

総 数	困らない	困ることあり
173	86	87

(留守家族調査より抜き集計)

夫の郷里に関する気がかりの内容としてのべたことは、次のような項目で、妻の困っていることの内容と大差はない。()は当該項目をあげたものの数)

〔営農上のさがかり〕

秋のとり入れのあと仕末(7) 次の営農準備(28) 冬のあいたにしなければならぬこと(10) 現在の農作業の進捗状況(1) 家畜の世話ができてゐるな(1)

〔家族及び家庭生活に関するさがかり〕

家族の健康(58) 子供のしつけ・教育(49) 火の用心、戸閉り(4) 除雪作業(3) 税金関係(3) 妻がひねくれることはないかなど、別居による家族の人間関係(4) 家族の生活費のこと(2)

〔社会生活上のさがかり〕

消防団、部落役員などの責任(4) (とくに妻が代行していることに対しての気がかり(1)) 道ぶしんのこと(1)

3. 出稼中の夫の生活と妻の心配

(向) 出稼しているご主人のことでどんなことが心配ですか

MA-----

総 数	別 に ない	心 配 ご と あり	心配ごとの内容 (M. A)					
			怪 我	病 気	酒	女 性 関 係	金 づ かい	そ の 他
316	17	299	231	216	23	6	5	5

(留守家族調査)

注) 心配ごとの内容は一人で2項目以上答えたものがあるの
で合計数は「心配ごとあり」の数と一致しない。

このような妻の心配に対し、出稼中の夫の状態を、出稼者調査の
結果からひろってみる。

(1) 病気、怪我

(向) 出稼にでられてから元気におすごしですか。仕事を体む
ような病気や怪我をなさったことはありませんか---

総 数	無事に元 気でいる	病気を した	怪我を した	そ の 他
173	160	5	5	3

(出稼者調査)

(2) 耽場の人間関係

(向) 今の耽場に、あなたのご家族や、しんせきの方、あ
るいは同じ村の人がいらっしゃいますか。---

総 数	集 団 就 職	家族やしん せき、村の 人がある。	た だ も い な い
173	60	94	19

(出稼者調査)

なお、出稼についての自由な意見の中で、同じ駄場に同郷者や、しんせきなどがいるので淋しくない。安心して仿ける。心強い、などと答えている。

(問) 駄場で一しよに仿いている上役とか、同僚の人たちとうまくいっていますか。

総 数	うまくいっ ている	まあまあうまく いっている	うまくいかない ことがある
173	151	20	2

(出稼者調査)

(3) 小づかいの額と主な使途

(問) あなたは酒たばこなどふくめて、月どれくらい小づかいをおつかいになりますか。(宿舍費や食費などをふくめません)

総 数	～ 千円	1000円 ～	2000円 ～	3000円 ～	4000円 ～	5000円 ～	6000円 ～	7000円 ～	10,000円 ～	平 均
173	3	16	27	50	17	38	12	6	4	円 3800

(出稼者調査)

(向) 主に何におつかいになりますか。(M. A)

主 な 使 途	回答数	内 容
たばこ	120	
酒	81	
日用品身廻品	43	衣類、下着、手袋、作業衣等
食 費	38	日常食費(事業所)のを除く向食代、副食代、夜食代、外食代
修養娯楽費	43	映画(19)本雑誌(5)旅行見物(2)寫真カメラ(2)、パチンコその他の娯楽費(15)
帰省旅費その他の交通費	9	
交 際 費	3	
雑 費	17	入浴、散髪、郵便料、薬代、栄養料、疲労回復料

(出稼者調査)

(4) 全暇の過ごし方

(向) あなたは仕事の休みの日には主にどんなことをしてすごされますか。(MA)

休日、夜などの暇な時の過ごし方として、調査票に掲げた16項目の中身のまわりの整理とテレビを見るが最高で(38~39%)、手紙書き(33%)、ごろ寝(31%)、読書—娯楽本(26%)、映画、パチンコ、親類訪問、帰郷、見物、囲碁、其の他の順となっている。

(向) 夜などひまなときはどうしておすごしですか。(M.A)

夜は圧倒的にテレビを見る(73%)が多く、雑談(38%)、

手紙かき(27%)、読書(23%)等がついでいる。

(問) この前の休日にはどうしてすごされましたか。

この前の休日のすごし方をみると、ごろ寝が1番多く(20%)
テレビを見る、身のまわりの整理をする、映画をみる、帰宅するな
どが次いている

休日がないと答えた者が17人(10%)あった。

総 数	1 身 の ま わ り	2 ス テ レ ビ ジ ョ ン	3 買 物	4 映 画	5 パ チ ン コ	6 ご ご し や う ぎ	7 手 紙 書 き	8 ご ろ ね	9 読 書	10 雑 談	11 知 人 訪 問	12 帰 郷	13 見 物	14 道 具 整 備	15 そ の 他	16 休 日 か な い
173	67	63	19	32	26	8	54	51	47	44	20	14	10	4	9	17

(出稼者調査)

注) その他は、散髪、散歩、ラジオ、画をかく、飲酒、食事作
り、送金事務である。

(5) 駄場や日常生活で困ることの有無

(問) 駄場のことや日常生活のことで困ることや不自由なこ
とはありませんか。

総 数	別に不自由で ない(困らない)	いくらか不自由 (いくらか困る)	不自由なこと あり(困ることあり)	無 回 答
173	119	33	20	1

(出稼者調査)

不自由なことあり(いくらか困る者も含める)と答えた者は30%。
あるが、不自由なことの内容の中、身のまわりの始末がめんどうと
答えた者が殆んどで、1部の者が性生活の不満や金銭の不足を訴え
ている。

4. 出稼に対する夫と妻の意識

(内) 一口にいつてあなたは出稼に出てよかったと思いますか。

それともよくなかったと思いますか。

総 数	よ か っ た	よ く な か っ た	ど ち も い え な い	そ の 他	回 答 な し
173	112	12	43	5	1

(出稼者調査)

注) その他の内容

出稼しなければ生活も出来ないのだから何も考えない (2)

昔からの風習で何とも思わぬ、はじめてで分らない、まあまあ普通

(全員に) 出稼に出られて (全員に) 出稼にでたために

よかったと思うことはど よくなかったと思うことはど

んなことですか。 んなことですか。

↓

↓

よかったと思うことを回答したもの計(130)		よくなかったと思うことを回答したもの計(107)	
よ か っ た と 思 う こ と	収入が増加家庭生活が安定した 114 労作条件や労作環境に満足 20 見聞が広まり勉強になる 20 其の他生活が自由でよいなど 15	よ く な か っ た と 思 う こ と	家庭にやくない影響がある 37 労作内容や労作条件に問題がある 14 栄養上よくない 9 其の他(家に居る方が楽、休 みになると見物に出て金がある。 何となくよくない。(2)など) 4
よかったと思うこと無し及無回答のもの計(23)		よくなかったと思うこと無し及無回答のもの計(66)	

(出稼者調査)

出稼に出てよかったと思うと答えた夫の数は全体の 65% で、地域別、家族型別にみても変りはない。よかった事では収入がふえて、家庭生活が楽になったというものがきわだつて多く、よくなかったと思うことでは家庭への悪影響を答えたものが多い。

(1) 今後の出稼希望 (夫および妻)

(向) 今度帰つてからも、また出稼に出ようと思われませんか、それともこれぞ止めたいと思われませんか。

総 数	また出稼 するつもり	今度 は やめるつもり	分らない 何とも云えない	その他
173	123	13	30	7

(出稼者調査)

注) ※ 其の他は、来年は出られない。(屋根を直さねばならぬ、部落の役の当番だから) 土地に仕事があればやめる。現在のつとめ先に常用雇用的に出る。無記入となっている。

すなわち 71% の者が「また出稼するつもり」と云つており、はっきり「やめるつもり」と答えたものは 8% にすぎない。

一方今後の出稼について妻の考え方をきいた結果は次の通りである。

(向) ご主人の出稼ぎは今後もつづけてほしいと思いませんか、できればやめてほしいと思いませんか。-----

総 数	つづけて	やめても	もうやめ	何と云え	(注)
	もらいた い	らいたいが やめられない	てもらい たい	ないわか らない	その他
316	110	150	32	13	11

(留守家族調査)

注) その他は、今回だけでやめる、出稼に代る仕事を考慮中、行方不明になる位ならやめてもらいたい、どちらでもよい、などのほか、村の人が行くので、知人に頼まれるからなど、「やめてもらいたいがやめられない」に分類されるもの(4)夫の希望ならば、楽な仕事ならばなど条件つき継続希望のもの(3)などである。

地域別にみれば、積極的にしる、消極的にしる、継続を肯定しているものが、「単作地域」では76.0%に比し「その他の地域」では90%を占め、逆に「もうやめてもらいたい」と意志表示したものは「単作地域」が率が高い。

家族型別には続けることを肯定しているものは、基本家族の86%、複合家族の86%、複合家族の90%で、「やめてもらいたい」ものは6%、13%である。

前述の夫留守のため困ることについて、「単作地域」よりも高い率をしめした、「その他の地域」の方が継続を肯定する率が高いという結果がみられる。

(2) 出稼や留守家族についての意見

(向) (妻へ) そのほか出稼や留守家族のことで何でも遠慮なくおっしゃって下さい。

(以下項目ごとに主要意見のみ記入)

I. 出稼についてのべたもの累計	153
(1) 出稼に対する積極的・肯定的意見をのべたもの (6) 父母健在な間は出稼をする。 ○ 出稼という感じをもっていない。 ○ 昔から出稼の村であるから世間もみとめ自分も承知の上で結婚している。	
(2) 出稼に対する消極的・肯定的意見をのべたもの。 (23) ○ 子供の教育費を得るためやむをえない。 生活が苦しいのでやむを得ない。 ○ 農業だけではくられず、近くに働き場がないから止むを得ない。 ○ 現金収入をえるためやむをえない。 ○ 村の人や仲間がそろって行くので行きたくないのだがやめられない。	
(3) 出稼に対して否定的意見をのべたもの (16) ○ 家族一緒にくらしたい (わずかなお金を得てくるより家にいてもらいたい)。 ○ 出稼をしないで暮せるようになりたい (農業だけで生活出来るようになりたい)。 ○ 子供達のためにも出稼はよくない (成長するにつれて父の不在を気にする)。 ○ 夫の健康が心配なので出たくない。	

(4) 出稼をなくすための方策についてのべたもの

(91)

- 近くに働き場所がほしい。(県内又は近県通勤範囲内など。工場誘致をのぞむ、をふくむ)
- 冬期地元に臨時の仕事がほしい。(内駄、副業 通勤出来る駄場を)
- 近くでの仕事の賃金を高くしてほしい。
- 常勤の駄場がほしい。
- 農業収入が高くなればよい。

(5) 出稼者の福祉対策についてのべたもの

(17)

- 月ノ回は帰してほしい。月ノ回の休暇日数をもう少し長く
- 帰省回数をもっとふやしてほしい。
- 帰省旅費は会社でみてほしい。

2. 留守家族の生活実態や福祉対策についてのべたものの累計

21

(1) 留守家族の生活実態についてのべたもの。

(8)

- 息子達は別居(就駄)妻一人残された生活は精神的の負担が大きい。(相談相手がなくて不自由をふくむ)
- 夫がいないと他の家族に余計気をつかう。
- 子供達が助けてくれるようになった。
- マスコミが出稼問題でさわぐので肩身がせまい思いがする。

(2) 留守家族の福祉対策についてのべたもの。

(13)

- 割りのよい内駄をあっせんしてほしい。
- 留守家族の会を作つてほしい。(雪おろしなど共同作業できるように。をふくむ)
- 夫の駄場をグループで見学できたらと思う。

出稼や留守家族についての意見

- (内) (夫へ) その他出稼についてお感じになったことや、事業所や役所、其の他会社に対しての希望や意見があったら何でもおっしゃって下さい。

(主要意見のみ記入)

1. 出稼についてのべたもの、累計	80
(1) 出稼に対する積極的・肯定的意見をのべたもの (13)	
○ 出稼は昔からの習慣なので当然のことである。	
○ 収入をえる道は出稼が最適	
○ 出稼はつらくはあるが、自由時間はあるし、農繁期には仕事が休めるので心配はない。	
(2) 出稼に対する消極的・肯定的意見をのべたもの (12)	
○ 農業だけではやってゆけないので仕方がない。	
○ 現金収入がほしいのでやむをえない。	
○ 冬期は雪が深くて仕事がないので出稼はやむをえない。	
○ 家族と一諸に暮らしたいがやむをえない。	
(3) 出稼に対して否定的意見をのべたもの (5)	
○ 家族と別れて暮すのはよくない、出稼をしなくて暮せるようになりたい。	
○ 出稼をしなくては農業経営も成り立たないので出るが、出来る事なら郷里でくらしたい。	
今後の出稼について方針をのべたもの (12)	
元気な間は出稼に出たい。	
子供が学校(高校)卒業までもうスー3年つづけたい。	

屋根の修理のため金がほしいので出稼をつづける	
(4) 出稼をなくすための方策についてのべたもの	(23)
○家族とはなれないでよい賃金を得たいので近くか、せめて県内に 出稼先がほしい。 ○出稼をしなくとも農業が出来るように、工場誘致、土地改善事 業等の農業対策を強化してほしい。 ○農村の生活が希望がもてるものにしてほしい。	
(5) 出稼者の福祉対策についてのべたもの	(15)
○各種社会保険の適用をのぞむ。 各市町村に季節労働者のため労農相談所をつくってほしい。 ○出稼者の統一的賃金協定をのぞむ。 ○出稼に出なければやってゆけない現実を知ってもらいたい。	
2. 苗守家族の生活実態や福祉対策についてのべたもの累計	14
(1) 苗守家族の生活実態についてのべたもの	(12)
<u>家庭および家族に関すること</u> ○子供(小、中、高校生)のことが気にかかる。 ○家族の健康が気かりである。 ○別居は感心しないがやむをえない。 <u>農業に関すること</u> ○郷里に男手がなく心配である。 ○3月はじめ帰郷すれば苗代にも間にあう。 ○多角至営とか、農業の企画化も資金がなくでは出来ない。 ○開拓地に入植して耕作したが、僅かの土地しか耕作出来ず、生 産はあがらなかった。	
(2) 苗守家族の福祉対策について	(2)

- 出稼家庭に、その生活程度に応じて何らかの補助をしてほしい。
- せめて子供の教育費の一部を国で負担してほしい。

3. 現在の労働生活についてのべたもの。

78

労働条件に関すること

(48)

- 賃金をあげてほしい。
- 作業時間の短縮をのぞむ。夜間の作業はつらい。
- 賞与がほしい。帰省旅費の補助をのぞむ。
- 健康管理の配りよを 疲労 即 事故の心配がある。
- 白ろう病の発生をおそれる。

福利厚生に関すること

(18)

- 短期雇用のため国民保険にかかっているが、社会保険(健康保険)の加入をのぞみたい。

健康保険と同様に事業主側比/部保険料の負担をしてほしい。

- 作業場に風呂場がほしい。寮に娯楽設備(テレビ)がほしい。

職場の人間関係に関すること。

(7)

- 従業員の使い方を考えてほしい。仕事以外は労使は対等である
- 職場に同郷者が多く心強くて安心である。

その他

(5)

- 安定した職場がほしい(仕事が途中でできる。雨天の時は作業がなくなる)

